



研究室紹介

茨城県霞ヶ浦環境科学センター 大気・化学物質研究室

● センターの紹介

霞ヶ浦環境科学センターは、平成7年度に霞ヶ浦周辺で開催された第6回世界湖沼会議において設置が提唱され、平成17年4月に設置されました。

センターの名称にも付けられている霞ヶ浦（霞ヶ浦とも表記）ですが、広義の霞ヶ浦は、通常、霞ヶ浦とも呼ばれる西浦と北浦に加えて、利根川をつなぐ常陸利根川を合わせた総称として使われます。センターは霞ヶ浦北岸の高台に位置しています。展望デッキからは霞ヶ浦が一望でき、ダイヤモンド富士等の撮影スポットとしてもお勧めです。

センターの組織は調査研究部門として大気・化学物質研究室及び湖沼環境研究室、環境学習・市民活動連携支援部門として環境活動推進課、運営部門として総務課があり、職員数は全体で43名です。

● 研究室紹介

私達の研究室では、主に①PM_{2.5}、光化学オキシダント、有害大気汚染物質、アスベスト、酸性雨、フロン等大気汚染について、②環境中の化学物質の残留状況の実態調査等化学物質について調査研究を行っています。また、航空機騒音についても調査を実施しています。

外部機関との連携につきましては、関東甲信静ブロックのPM_{2.5}合同調査、環境省及び全国環境研の参加機関によるⅡ型共同研究（PM_{2.5}関係）、全国環境研協議会による酸性雨全国調査等に参加しており、広域的な大気環境の課題に取り組んでいます。

研究室のメンバーは嘱託職員を含めて6名で、30歳代以下の若手が中心です。5年程度で他機関へ異動することが多く、技術水準の維持が課題となっています。そのため、主担当だけでなく副担当も検査分析ができるように技術・知識の共有を進めています。

分析やデータ解析以外の仕事で大きなウェイトを占めているのがサンプリングです。サンプリングでは、移動距離が長い日はほぼ1日かかりで鹿島コンピナート周辺や市街地の定点を回ります。霞ヶ浦を一周するコースもあります。

● センターその他の取り組み

センターで調査研究と並んで力を入れて取り組んでいるのが、環境活動の推進です。具体的には、県内の小中学生を対象として霞ヶ浦の水質調査やプランクトンの観察を体験してもらう「湖上体験スクール」は、主に土日を実施して水や生き物にふれる霞ヶ浦自然観察会等を開催しております。また、環境啓発の一環として行う「センター夏まつり」は毎年多くのお子さんで賑わいます。大気・化学物質研究室は夏まつりのイベントとして、空気で膨らませた風船を液体窒素で冷やしてどのように変化するか観察する実験を行う等、県民の皆様を楽しみながら気体の性質について学んでもらっています。

● 世界湖沼会議について

平成30年10月15日（月）～19日（金）、茨城県つくば市のつくば国際会議場をメイン会場として第17回世界湖沼会議が開催されます。当センターも会場の一部として海外からも多くのお客様をお迎えします。

大気環境学会会員の皆様のご来場を心よりお待ちしております。

テーマ 人と湖沼の共生—持続可能な生態系サービスを目指して—

* 物質収支は第5分科会「流域活動と物質循環」で取り扱う予定です。

ウェブサイト <http://www.wlc17ibaraki.jp/>

〈問い合わせ先〉

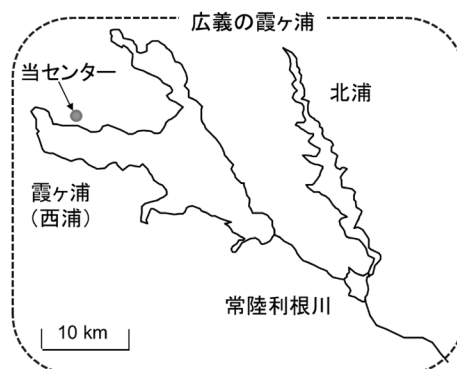
【第17回世界湖沼会議実行委員会事務局】

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978番6（県環境対策課内）

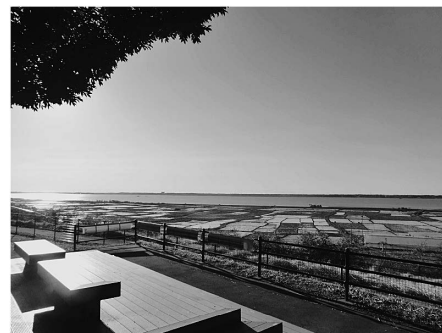
電話：029-301-2995 / FAX: 029-301-2969

Email: wlc17@pref.ibaraki.lg.jp

（前田）



センターと霞ヶ浦の位置関係



展望デッキからの風景



湖上体験スクール



センター夏まつり